



▲ヨッシーのタックルは一つテンヤ用。餌木は30グラム、カラーは光量が少ない深場でもアピールするシルエットがはっきり出る赤テープをチョイス  
▶小さくてゆっくりなストロークでシャクって餌木をダートさせる

ティッププラン エギングは シロギス竿や アジング竿でも 代用できる。 もちろん 専用ロッドがいいけど、 手持ちの竿で なんとかなるよ。



さをカバーしたいし、蒼一郎は自分のイメージどおりのティッププランを目指したい。

オレたち親子にとって、ティッププランはガチで取り組みたい釣りの一つ。ということで、専用ロッドを用意してみたー!

スピニングリールはシマノの3000番。ヨッシーは08号のPEに2.5号のフロロカーボンリーダーを直結し、スナップを介して餌木を付ける。

つまり、糸の先に餌木だけ。実にシンプルな仕掛けである。餌木を船下に落とす。船は、風と潮まかせのドテラ流しだから、着底は少し分りにくい。糸が止まった瞬間を見逃すと、糸が出続けてしまう。

あえて海面でPEラインをフケさせ、円を描くように浮かせてやると、糸が止まったかどうか分かりやすい。糸の動きを注視して、着底を見極める。

餌木が着底したら、1〜2巻きして根掛かりを回避し、数回シャクリ、竿先を8〜10秒ほどピタッと止める。

その間に、竿先がフツと戻ったり、クンツともたれるような変化が現れれば、それがアタリだ。ビシッと即合せて、アオリイカをカンナに引つ掛ける。「ティッププラン」というネーミ

ングから分かるように、とかく竿先に意識を集中させる釣りのためだ。

アタリがなければ餌木を再着底させる。船が速く流れているときは糸がどんどん斜めになってしまうので、落とし直さずに

6時に港を離れ、10分後には釣り開始となった。水深は20〜25メートルほどで、和田五郎船長は根周りやカケ上がりを狙っている。

序盤、餌木の着底も分かりやすかった。「永遠のビギナー」として知られるタカハシゴーでさえ、明らかに着底が分かる。「これは釣りやすい!」と無邪気に喜ぶタカハシゴー。しかし、手練れのヨッシーと蒼一郎、そしてイチロウは悩ましがげである。

着底が分かりやすいということとは、船はほとんど動いていない。つまり潮が流れていないということであり、恐らくアオリイカの活性は低いのである。「これは厳しいかもしれない!」不安を打ち破ったのは、釣り開始から15分後、静かな勝山沖に響いた「んっ!」というかけ声とビシッという合わせだった。



▲のけぞるようなダイナミックな合わせをするイチロウ

回収してやり直したほうがいい。ヨッシーは、「言葉にするとは煩雑そうに感じただけど、ようするに餌木を落とし、シャクリ、合わせるだけ。決して難しい釣りじゃないよ」と強調する。だが、しかし……。

回収してやり直したほうがいい。ヨッシーは、「言葉にするとは煩雑そうに感じただけど、ようするに餌木を落とし、シャクリ、合わせるだけ。決して難しい釣りじゃないよ」と強調する。だが、しかし……。

「竿先が戻るようなアタリだったから、アオリイカだとは思うけど……」と、半信半疑である。最近の内房は、サブフグが非常に多い。この日も、ヨッシーがたびたびアタリを出すものの、「たぶんサブフグだな……」と首を傾げていたし、蒼一郎はプツリとPEから切られること

# ツリガチ!

## 内房のティッププラン エギング

文◎高橋剛

★竿先に集中し、繊細なアタリを取り、おいしいアオリイカをゲットするティッププランは、関東でも人気の高まりを見せている釣り物だ。釣法はシンプルだが、状況次第では魚を釣るより難しさがある。サッカーW杯たけなわの今、ツリガチ取材班も絶対に負けられない戦いに臨んでいた。



その刺身はしなやかにしてほどこよい歯応え。かむほどに口の中に広がる上品な甘味は、イカの刺身の中でも極上とされる。「イカの王様」とも称されるアオリイカは、1年で寿命をまっとうする年魚と言われている。春から夏に生まれるアオリイカの子どもは、9月ごろには「コロッケ」と言われるちびっ子サイズになる。

コロッケは秋の深まりにつれてクングン成長し、遊泳力が高まり、行動範囲が広がる。そしてハンバーグになり、ステキになり、ワラジになるのだ。成長期まつ盛り。捕食行動は活発で、なおかつ群れを形成している。つまり、釣りやすい。「秋はアオリイカの数釣りのシーズン」と言われるゆえんだ。

船から餌木を使ってアオリイカを狙うティッププランエギングにおいても、数が釣れ、しかも良型も交じり始める晩秋は、まさにハイシーズンである。

「ふっふっふ……」  
「釣れそうだよな……」  
「むっふっふっふ……」

11月28日、内房勝山港の勝山かかり釣りセンターに集結したツリガチ取材班の内房は、完全にトラタヌすなわち取らぬ狸の皮算用状態だった。

今回は、ジャッカル・プロスタツフのヨッシーこと吉岡進さんをリーダーに、釣友のイチロウこと鹿島一郎さん、ライターのタカハシゴー、その息子であり本誌「親子でゴー」連載でもおなじみの高橋蒼一郎の計4名が、アオリイカとのガチで負けない戦いに挑む。

ヨッシーが、秋深い空を見上げた。早朝の勝山上空に朝日はなく、重い雲に覆われている。「悪くはないんだけどね」とつぶやく。目がいいアオリイカは、空が暗いと警戒心が薄らぐ。「ただ、暗ければいいってものもでもないんだ。アオリイカが餌

餌木を落とし、シャクリ、合わせる。決して難しい釣りではないが……

ちなみに今回のおれは、完全に一つテンヤタックルのまま。この気軽さがいいんだ」

タカハシゴー親子は、今回のティッププランにのぞむにあたり専用ロッドを新調した。今までは一つテンヤ竿で代用していたが、ティッププランの面白さにハマリ、ついにガチになったのだ。「正直なところ、一つテンヤ竿でも、全然まかなえていたと思う」とタカハシゴーは言う。「でも、オレは自分の腕の未熟



▲右舷に並んでのドテラ流して探っていく



### 当日のアオリイカ船で見つけた 内房のティップランで 〇〇がちなシーン

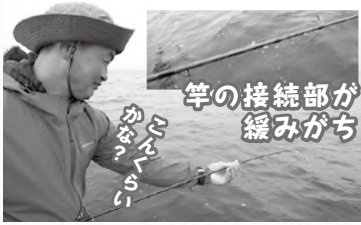
▶アタリをとらえて合わせると無情にもラインブレイク。大切にしていた餌木もロスト。犯人はおそらくサバフグ!?



### 記念撮影しがち

▲当日最大1.3キロのアオリイカを釣り上げた蒼一郎。ヨッシーとのツーショットをスマホで撮影するタカハシゴー

▶竿の継ぎが甘かったのか、夢中でシャクついでいるうちに緩んでガイドの位置がズレてしまった



★釣り上げたイカの撮影をしていると潮を吐かれることもしばしば。墨でなくてよかったです。カメラは大丈夫!?

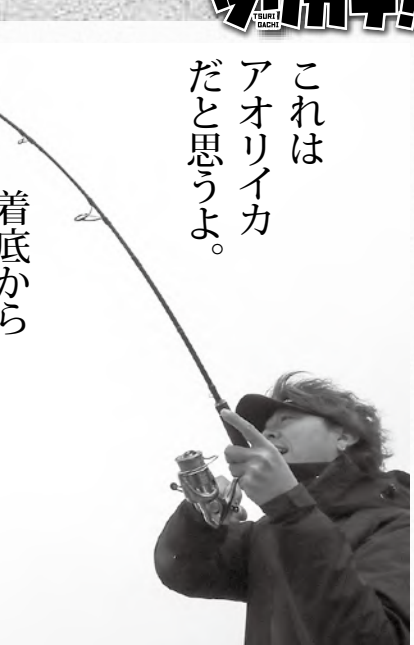


### 根掛かりしがち

▲▼餌木を着底させてから誘うため根掛かりは付き物。運よく外すことができたと思ったら不思議な生き物や海藻などが引っ掛かってくる



▲船中1杯目となる1キロ級のアオリイカをキャッチ



▲グリーン、グリーンとアオリイカ独特の強い引きで竿が大きく曲がる

これはアオリイカだと思おうよ。

着底から8シャクリして、餌木を止めたところですぐにアタリが出たんだ。

「う、うん、イカかも」と半信半疑でリーリングするタカハシゴーの横で、蒼一郎がビシッと合わせを決める。ここへきて、まさかのWヒットである。まずタカハシゴーがハンバード級を上げ、直後に蒼一郎が1.3キロのナイスサイズをキャッチ。メスとオスのペアだったようだ。着底が分からずにいたタカハシゴー。たぶん餌木は底付近を漂っていたらう。そして蒼一郎の餌木にアオリイカが抱きついたのは、根掛かりが外れた瞬間だったそう。

「1杯を釣ったうれしさよりも、状況の渋さ」が気になるヨッシーである。ヨッシーが釣つたにもかわらず、だれにもアタリが出ない。アオリイカは群れていてもおかしくないのだ。結果は、ヨッシー1杯、蒼一郎2杯、タカハシゴー1杯、そして手練れのイチコウがまさかのオデコ。シブいときのシブさは、魚以上に徹底している。最後にヨッシーが、厳しかった戦いを振り返る。

「1杯を釣ったうれしさよりも、状況の渋さ」が気になるヨッシーである。ヨッシーが釣つたにもかわらず、だれにもアタリが出ない。アオリイカは群れていてもおかしくないのだ。結果は、ヨッシー1杯、蒼一郎2杯、タカハシゴー1杯、そして手練れのイチコウがまさかのオデコ。シブいときのシブさは、魚以上に徹底している。最後にヨッシーが、厳しかった戦いを振り返る。

「あまりにアタリが少なく、ヒントがなかったね。普通ならだれかが釣ればバタバタと続くものだけど、それもなかった。それでも船中4杯だから、まあなんとかなった……かなあ? (苦笑)」

「あまりにアタリが少なく、ヒントがなかったね。普通ならだれかが釣ればバタバタと続くものだけど、それもなかった。それでも船中4杯だから、まあなんとかなった……かなあ? (苦笑)」

「あまりにアタリが少なく、ヒントがなかったね。普通ならだれかが釣ればバタバタと続くものだけど、それもなかった。それでも船中4杯だから、まあなんとかなった……かなあ? (苦笑)」



「あまりにアタリが少なく、ヒントがなかったね。普通ならだれかが釣ればバタバタと続くものだけど、それもなかった。それでも船中4杯だから、まあなんとかなった……かなあ? (苦笑)」



▲終盤になるとアタリが増えてきた

▲1.3キロ級のアオリイカを釣り上げた蒼一郎

「……ッ、シャッ……」満を持して大きな合わせを入れたのは、ヨッシーだ。いつしか船は、40メートルからカケ上

「……ッ、シャッ……」満を持して大きな合わせを入れたのは、ヨッシーだ。いつしか船は、40メートルからカケ上

「……ッ、シャッ……」満を持して大きな合わせを入れたのは、ヨッシーだ。いつしか船は、40メートルからカケ上

「……ッ、シャッ……」満を持して大きな合わせを入れたのは、ヨッシーだ。いつしか船は、40メートルからカケ上

「……ッ、シャッ……」満を持して大きな合わせを入れたのは、ヨッシーだ。いつしか船は、40メートルからカケ上

「……ッ、シャッ……」満を持して大きな合わせを入れたのは、ヨッシーだ。いつしか船は、40メートルからカケ上

「……ッ、シャッ……」満を持して大きな合わせを入れたのは、ヨッシーだ。いつしか船は、40メートルからカケ上

「……ッ、シャッ……」満を持して大きな合わせを入れたのは、ヨッシーだ。いつしか船は、40メートルからカケ上



▲海面に浮上したアオリイカ。ジェット噴射で逃げようとするので取り込むまで油断できない